



祝 辞

那覇市

市長 翁 長 雄 志

(代読) 新垣 一男 (建設港湾部長)

風格ある県都づくりへ邁進

沖縄県設備設計事務所協会並びに社団法人建築設備技術者協会の設備懇親会にあたり一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日は平成14年度通常総会が無事終わられまことにおめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、日頃より那覇市の建設行政に対しまして、ご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げる次第であります。

昨年は、年後半の米国の同時多発テロ事件を発端としたアフガニスタンの戦闘等非常に危惧される状況がありました。

また、この影響は、本県観光産業にも影響がおよび、雇用環境悪化とあわせ県内の経済状況は大変厳しいものであります。

私も「だいじょうぶさあー沖縄」のキャンペーンに合わせて関係機関へ沖縄での総会、大会の開催を要請したところ多くの皆様が沖縄に来てくれました。私は今後も元気な沖縄をアピールし、観光都市・那覇の発展に取り組んでまいりたいと思います。

さて、本市の昨年一年間を振り返ってみますと、私にとって就任一年目の大変多忙な年でもありましたが、市政施行80周年という大きな節目の年、また21世紀に向けて、その幕開けにふさわしい実り多い年でありました。

特に、記念事業として開催した元ソ連大統領、ノーベル平和賞受賞者でいらっしゃるミハイル・ゴルバチョフ氏の記念講演会は、大きな反響を呼び、私も含め多くの市民の皆様が勇気づけられ、次代につなぐ希望にみちた21世紀を予感させる素晴らしいものであります。

又、4月26日から5泊6日の日程でロシアの首都モスクワを訪問しゴルバチョフ財団の日本支部を那覇市に設置する合意書を交わしました。

現在の様々な状況を新しい世紀時代に移行する途中の大事な通過点であるにとらえ、市民の視点、都市経営の視点からしっかりと「風格ある県都」づくりに取り組んでまいりたいと決意を新たにしております。

おかげをもちまして、那覇新都心地区の整備も順調に推移しており、皆様のご協力のもとに新都心公営住宅建設工事も8月には完成の運びとなります。

また、都市モノレールについては、各駅舎・桁架設工事が急ピッチで進むなか、昨年12月からは那覇空港から赤嶺駅、小祿駅の3駅間の試験運転もはじめられ、去った3月には約13キロの桁が一つにつながり多くの市民、県民が平成15年の運行開始を待ち望んでいるところであります。

さて、14年度は、インキュベート施設建設工事の設計、城西小学校校舎改築工事の設計、工事を予定しており、発注に際しこれまで同様、分離分割発注、県産資材の優先使用を進めてまいります。

会員の皆様におかれましては、協会組織の充実はもとより、建築設備のエキスパートとして、これまで以上に技術力の向上に研鑽され、建設業界のみならず地域社会の発展に大きく寄与されますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と、ご参加の会員様のご繁栄を祈念いたしまして、お祝いのごあいさついたします。

